

# ワールドカップ 2009 に参加して

清水 学

## 《代表者ミーティング》

各国の代表者数名が会議室に集まって、P J氏が試合方法の確認やプレイヤーリストの記入について説明がありました。パソコンとプロジェクターを利用し資料を提示していました。フランス語と英語の会議なので何がなんだか分からないうちに終わってしまい不安が残ります。また、写真販売の説明がありましたが全く内容がわかりませんでした。

会場である「アルフォンス・デジャーディン・スポーツセンター」(?)の見学をします。屋内サッカー場、アイスリンクが印象的です。

## 《レフリーミーティング》

代表者会議終了後、別室でおこないました。全6名のレフリーが集まります。4名がカナダ、ベルギー・日本から各1名です。自分以外はフランス語メインで会話します。P J氏がヘッドでフランス語と英語で通達します。

内容は公平にジャッジをするように。金銭による買収をされないように。朝・昼食代について。深酒の禁止についてなど一般的なものでした。初日のミーティングでは英語読解力がイマイチでした。毎日ゲーム前(15:15~)にミーティングをすることも確認。

セミファイナル・ファイナル担当については後日決定とのこと。

——各日のレフリーミーティング——

当日のレフリー割当てが配布されます。(初日に関しては、前日に変更なしで確認済み)事前に予定表はありましたが、変更されました。

内容としては、ルールの確認や情報交換、前日のゲームのフィードバックをおこないます。

たとえば、二日目に、前日の内容でレッドカードに相当することがあったので、威厳をもってカードを出すようにアドバイスをされました。

個人的には、ルールブックやレベル3マニュアルでレフリーとしての確認をおこないました。

4日目にランチミーティングがありました。ファミレスで談笑しながらランチをとり、親交をふかめます。ただ会話はほとんどフランス語です。家族の話をしているとかでわずかに英語で入り込む隙がありました。

準決勝と決勝は直前に割り当てられました。

## 《レフリーウェア》

両袖が黒の黄色ジャージーです。左手首に青、右手首にグレーのアームバンドをします。また、各自で腕時計をもって、タイムアウトの時間計測をします。

レフリーウェアの裾は半パンの中にしまい、すこし表側に引き出して半パンの上部を隠すようにすることと指導されました。他のレフリーは、短めのソックスを使用しています。

ヘッドレフリーは胸にワッペンをつけます。レッド・イエローカードを用意します。

ホイッスルは自分以外全員、胸からぶら下げていました。(口にくわえながら走ってました)

## 《試合前の準備》

ヘッド・アシスタント間で情報交換を行い、二人の見解の統一をはかります。特に二人の位置取りを確認しあいます。お互いを元気づける行動として、グータッチをします。

スコアキーパーと得点の入れ方の確認はしていません。

身体的な準備として、コートを2～3周一緒にランニングします。そのほかは各々準備します。身体的にまた精神的にもHighにしてゲームに臨むように指導されます。

## 《ゲーム》

ベンチにプレイヤーが入ったら、キャプテンミーティングをセンターで行います。

内容は、レフリーの紹介と見たものだけを判断するとか、何か質問があるかをきいています。

その後アシスタントによる、サイコロを振ります。みなにアピールするためにホイッスルを数回鳴らします。今回は自分がヘッドの時、自己PRだけしたらARにバトンタッチしてフランス語で通訳してもらいました。ヘッドとして情けない一幕です。

### 【試合等の開始】

ヘッドがコートの外からは入れないで、コート内からはじめています。また向きもレフリー次第で変化する。ヒットチームのベンチを指している。

### 【ピリオドの終了】

合図しながら腕を上下動させている。

### 【タイムアウト】

レフリー間で相談する時によくとる。

残り1分のタイムアウトでタイムキーパーによる時計のストップが遅れた場合など、ヘッドが時間を戻している。

プレイヤーからのタイムアウトで、残り5秒を指でオープンにカウントしている。

### 【ヒットイン】

早めに鳴らしている。ARはボールの位置を指し続ける。それによりイリーガルトラベリングをみている。

### 【リプレー】

意外に多かった。

プレイヤーやレフリーの邪魔で取れなかった場合、程度（レフリー判断）によるが多くはリプレーになっていた。

HRとARの判断が食い違ったりしたとき、タイムアウト後審理してリプレーで再開する。

### 【アウトサイド】

観戦している中で一度だけ「みなし」でアウトサイドのジャッジがあった。（多くを見ている中で自分が気付いた唯一の判断であった）

ラインが太い割には、ライン上をアウトにしている。

### 【イリーガルディフェンス】

カナダディフェンスをするチームが多いので、頻繁にある。ただし、ヒットの瞬間でない場合もあるのが不思議。

多くの場合、3人が近寄る場合とボールに触れてしまう場合である。

#### 【コンタクトミス】

外国人の指の長さに改めて驚く。

意外と触っている振りをしている人が多い。(このような人は中腰でいることが多い)  
ボールを瞬間で止めてヒットするので起こりやすい反則である。

#### 【コールミス】

語尾がヒットとかぶるコールを見逃すという人がいた。

ジュニアのゲームでは、ラリーになるとコールミスが多発。

フランス語で聞きづらいところが多く、大きな声で復唱できない。

どちらとはっきり判断できないことがあった。

#### 【トゥワイス】

ジュニアのゲームでは、エースプレイヤーがヒットするケースが多く、よくある反則でレフリーもよく見ている。

#### 【ショートヒット】

ほとんどとらない気がする。たまに取るのは、ディフェンスに当てに行ったが失敗したときである。

ショートをとったら、レフリー間で賞賛された。

#### 【ダウンワードヒット】

人によって判断が分かれる。(ほとんど取らない人がいる。)

#### 【レシーブミス】

ジェスチャーが違う人がいる(床が動く)。

#### 【タイムオーバー】

5秒なのか10秒なのか伝えている場合もあった。

#### 【プレイヤー同士の故意の妨害】

プレイヤーが突き飛ばしたり、押さえにくい動作をしたときに起こった。

#### 【プレイヤーとボール間の故意の妨害】

ボールを身体全体で真下に押し込むようなヒットがこれにあたる。

#### 【反スポーツマンシップ的行動】

判定に対してスラッグを飛ばした行為があった。フランス語で「この野郎！」と言われてもわからないであろう。

キャプテンが何度もレフリーに聞きにくる行動にあった。(レッド)

相手にボールを当てにいこうとして、撥ね返ったところを二度ヒットしてしまう行為があった。

#### 【スポーツマンシップ憲章に従わない言動】

初日にあったが、監督が「やってられないよ〜!」的な態度を取った時にとってもよかったという話をミーティングであった。

#### 【イリーガルトラベリング】

結構多かった。

ARがポイントを指で指してしるので、距離的にはわかりやすく反則をとる。

移動距離で取ることが多く、同一方向で反則する場合は少ない。

### 【口頭注意】

不当な攻撃で2回目の口頭注意は数回あった。そのうちの1回は3回目をしてイエローカードとなる。

タイムアウトが解除になる5秒前の1回目の笛のあと、セットが遅くて遅延行為の口頭注意が数回あった。

### 【その他】

もしフランス語で無礼な言葉を浴びせられても一人だとまったくわからなかったと思います。英語の知識も必要でしょうがフランス語も出来ることなら覚えた方がよいでしょう。ただ、プレイヤーからフランス語で話しかけられても、何かを指で指していたりジェスチャーをすることによって伝え聞いたりすることはできました。

ゲームが中断した時にタイムキーパーを意識しています。監督や選手からも指摘を受けます。最後の1分の場合時計が動いていたので戻すように言われたり、自らが時間を戻しています。

プレイヤーからスコアの電光計時の表示が違っていると指摘される。

ゲーム終了後の集合・発表・握手はありませんでした。

ゲーム中は、ヘッドがアシスタントを動かすことが多いので、アイコンタクトをしながらお互いの位置確認をしつづけます。(Keep Looking)アシスタントは常に反対サイドにいるように徹底されます。

ゲーム中は顔の表情を変えずポーカフェイスでいるようにとのコメントもありました。

### 《ピリオド間》

二人の間でグータッチで勇気付けあい、フィードバックを行います。今回はPJからも指導指示を受けます。「コールの復唱を大きな声で」、「クラウチング&クローズドのポジション」等試験と

同じような雰囲気です。常にピリオド間で確認しながら行動できるので徐々に慣れて出来ていくことを感じます。このようなやり取りが一段落したり、レフリーの態勢が整ったら次のピリオドに入ります。

### 《ゲーム後》

スコアシートにサインするまでの間は、ベンチに気を向けとくように指示されました。レッドカードの可能性が大きい時間帯だからです。

二人のグータッチ、PJとのフィードバックです。次のゲームに備えます。

### 《本部席&SK席》

机4台と椅子数脚くらいのさほどのたいしてスペースはとっていません。

レフリーは本部席裏側で待機していました。(荷物もここに置いていた)

スコアボード(大)得点用と(小)ピリオドポイント用、時計、DJミキサー、PCを用意しています。

係が必決まっているようだが、いなくなったりすると手の空いている人はSKと時計に関して手伝っていた。

PCとミキサーを連動させてゲーム中以外は音楽を流し、会場の盛り上げに一役買っています。また、ゲーム前の国歌演奏もおこなっています。

4枚複写のスコアシートは本部席で記入します。(1枚は保管、3枚はチームに配布)

途中で本部席が移設となった。SK席は電飾の機械のみを置き、天井から吊るされた電光掲示板に得点が表示される仕組みである。

スタッフ用ミネラル水(Pボトル)が用意された。

## 《感想》

フランス語が話せたらよかった。

レフリーとして経験が大切である。今回初めて世界を体験したが、動き的には最初から気後れすることなく行動できたが、見る目に関しては若干劣っていました。すぐに修正しながらベストな状態をキープしていきました。どちらかという世界舞台に立つ緊張よりもフランス語のコールを聞き取れるかどうかというプレッシャーの方が大きかったと思います。

初日はジュニア選手からも珍しそうな目つきで見られていましたが、フランス語を話せないながらもレフリーとして認識してくれるようになり、すぐに挨拶や軽い会話をするようになるようになり日本人レフリーとして受け入れてもらえたような感じがありました。そのようなこともあり今回初めてレフリーをするのが楽しいとゲームしながら実感しました。いいプレーの中でジャッジする楽しさは格別に快感です。他のレフリーからも「GOOD」といわれると張り合いが出てきます。気軽に言い合える環境の大切さを覚えました。レフリー間での話の中でアドバイスは素直に聞き入れ、実践に活かしていくスピーディーな行動力とその姿勢は見習うところでした。自分も言い訳を英語で言う時間もなく、コメントの中のキーワードをリピートし次につなげながら進化することを心がけました。

表彰式でのレフリーを賞賛して盾を頂いたこともとてもうれしかったです。やはり一番は大会後の交流の中で、レフリーだねと覚えてもらい会話が弾んだことです。以前競泳選手時代の海外遠征ではボディランゲージだけで交流していただけに、英会話のレッスンを続けていたからとはいえ自分の進化に歓心しています。

今回の経験を国内外のレフリーにできるだけ伝えていければいいなと思います。初めて世界を感じ世界を伝える喜びと責任を改めて感じる次第です。

最後に、レフリーとして中立の立場にということで、高見団長以下関係者のみなさまにいろいろと気を使っただきありがとうございました。日本人ながら日本チームを応援できない辛さと申し訳なさがあり、お役に立てなかったにもかかわらず陰ながらでも声援していただいたこと心より感謝しております。チーム日本に同行させていただきありがとうございました。

以上

平成21年11月17日

※ ルール・マナー等の内容に日本国内での現状と一致しない項目があります。あくまでワールドカップ期間内での個人的感想・見解に過ぎません。国内での活動は、日本キンボール連盟が定めたルール・マナー等を遵守してください。※